

CASBEE-京都-建築(新築)2018年版
(仮称)京都七条 ホテル計画

■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年
 ■評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点		重み係数
Q 建築物の環境品質									
Q1 室内環境									
1 音環境									
1.1 室内騒音レベル									
				[共・宿]目標値:NC30	5.0	0.40	4.0	0.40	
1.2 遮音									
1 開口部遮音性能				[共・宿]開口部遮音性能:T-2	5.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能					-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				[宿]Dr:45	-	-	4.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	-	2.0	0.20	
1.3 吸音									
					3.0	0.20	3.0	0.20	
2 温熱環境									
2.1 室温制御									
1 室温					2.0	0.50	2.5	0.50	
2 外皮性能					3.0	0.38	3.0	0.57	
3 ゾーン別制御性					2.0	0.25	2.0	0.43	
					1.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御									
					1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式									
					1.0	0.30	1.0	0.30	
3 光・視環境									
3.1 昼光利用									
1 昼光率				●自然 A(全国版準用)	[共・宿]昼光率:2.0%以上2.5未満	3.6	0.30	2.4	0.30
2 方位別開口					4.0	0.60	2.0	0.60	
3 昼光利用設備				●自然 B(推奨内容)	-	-	-	-	
					3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策									
1 昼光制御				●自然 B(推奨内容)		1.0	0.30	3.0	0.30
					1.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度									
					3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御									
					1.0	0.25	5.0	0.25	
					3.0	0.25	3.2	1.00	
4 空気質環境									
4.1 発生源対策									
1 化学汚染物質					3.0	0.50	3.0	0.63	
4.2 換気									
1 換気量					3.0	1.00	3.0	1.00	
2 自然換気性能				●自然 A(全国版準用)	[宿]自然開口有効面積は床面積の1/30以上	3.0	0.30	3.6	0.38
3 取り入れ外気への配慮					3.0	0.50	4.0	0.33	
					3.0	0.50	4.0	0.33	
4.3 運用管理									
1 CO ₂ の監視					3.0	0.20	-	-	
2 喫煙の制御					3.0	1.00	-	-	
					3.0	-	-	-	
Q2 サービス性能									
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ									
1 広さ・収納性					3.0	0.40	1.5	0.60	
2 高度情報通信設備対応					-	-	1.0	0.50	
3 バリアフリー計画				●大切 D(独自基準)	3.0	1.00	2.0	0.50	
					3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性									
1 広さ感・景観 (天井高)				●とも C(独自加点)	[宿]天井高:2.5m以上	1.0	0.30	2.5	0.40
2 リフレッシュスペース					-	-	4.0	0.50	
3 内装計画				●自然 D(独自基準)	-	-	-	-	
					1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理									
1 維持管理に配慮した設計					3.0	0.30	-	-	
2 維持管理用機能の確保					3.0	0.50	-	-	
					3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性									
2.1 耐震・免震・制震・制振									
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					3.0	0.50	-	-	
2 免震・制震・制振性能					3.0	0.80	-	-	
					3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数									
1 躯体材料の耐用年数				●大切 A(全国版準用)	3.4	0.30	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					2.0	0.20	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					4.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					4.0	0.10	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔					5.0	0.20	-	-	
					3.0	0.20	-	-	
					4.0	0.10	-	-	
					4.0	0.10	-	-	
					5.0	0.20	-	-	
					3.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性					2.8	0.20	-	-	
1	空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				1.0	0.20	-	-	
3	電気設備			非常用発電機、UPSの採用	4.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備				3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					3.0	0.30	2.6	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり					-	-	2.2	0.50	
1	階高のゆとり				-	-	1.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	壁長さ比率:0.1以上0.3未満	-	-	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					3.0	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	3.3
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)	生物環境の保全と創出に配慮している	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●とも、 自然	A'(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制				断熱性能の高い建築材の採用	3.4	0.20	-	-	3.4
2 自然エネルギー利用		●自然	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		●自然	C(独自加点)	[BEI][BEIm] = 0.74	4.2	0.50	-	-	4.2
4 効率的運用					2.5	0.20	-	-	2.5
集合住宅以外の評価					2.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制				2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価					-	-	-	-	
4.1	モニタリング				-	-	-	-	
4.2	運用管理体制				-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護					2.2	0.20	-	-	2.2
1.1 節水					1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					3.4	0.60	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)		3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)	フリーアクセスフロアの採用	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					3.5	0.70	-	-	
1	消火剤				-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			ODP=0、GWP<50の断熱材を使用	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮				高効率な設備機器の採用によるCO2の削減	3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮					3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制			利便性、渋滞緩和に配慮した駐車場計画	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮					3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
1	騒音				3.0	1.00	-	-	
2	振動				-	-	-	-	
3	悪臭				-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制					3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制				-	-	-	-	
3	日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制					4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●とも	B(推奨内容)		3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目 重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともにも使う 「自然」:自然からつくる